

Systemex

BeFine!

第39期営業のご報告

2005年4月1日～2006年3月31日

証券コード 6869



シスメックス株式会社

検体検査事業からライフサイエンス事業へと活躍の場を拡げつつあるシスメックス。健康への関心がますます高まる社会の中で、当社は健やかな未来に独自の技術と製品で貢献してまいります。「BeFine! (健やかに!)」は、シスメックスグループと株主の皆様の架け橋として四半期ごとに発行しています。

業績の推移 1

ごあいさつ 1

事業のご報告

所在地別セグメント 3

特集・トピックス

フォーカス オン シスメックス

身近なシスメックスを知っていただくために
こんなところに

シスメックス 5

シスメックスのこれからを知っていただくために
疾患マネジメントの
シスメックス 6

トピックス

第39期事業活動の動向 7

財務諸表の概要

連結 9

単独 11

事業別売上高・品目別売上高/
商品一覧 12

株式の状況/会社概要/
株主メモ/役員のご紹介 13

IR・広報室からのお知らせ

業績の推移



※2005年11月18日付で、普通株式1株につき、2株の割合で株式分割を実施しました。

***検体検査**: 血液や尿、細胞などを体の中から取り出して調べる検査のこと。シスメックスは、「検体検査」分野で、血液検査や免疫血清検査、尿検査などをおこなうための機器や試薬、さらにはこれらに関するソフトウェアなどの研究開発から製造・販売・サービス&サポートまで手がけている総合メーカーです。



世界のヘルスケアテスト 中期経営目標の達成に向

海外売上高比率が続伸し、 過去最高の業績を達成

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社グループを取り巻く世界各国の市場環境は、景気回復がより鮮明となった日本、総じて堅調に推移した米国、緩やかながら景気回復基調を維持した欧州、高成長を続ける中国やインドなど、全般的に堅調さを持続しています。医療環境は、日本、欧米では医療費抑制政策が継続しており、依然厳しい状況が続いております。一方、先進国における高齢化、新興国における医療インフラの整備に加え、個人の健康ニーズなどヘルスケアに対する需要はますます拡大しています。

このような状況のもと、当社グループの当期連結決算は、過去最高の業績を達成し、売上高は6期連続増収、経常利益は8期連続増益となりました。売上高・利益ともに10%以上の伸びを示し、特に売上高は5期連続で二桁の成長を継続しています。

売上高では、海外における伸びが著しく、特に欧州では前期比19.7%の増収となりました。この結果、海外売上高比率はさらに上がり、約60%となりました。また、利益面におきましては、増収効果により売上総利益が増加し、事業基盤の強化及びライフサイエンスをはじめとする研究開発投資の充実による販売費

***血液凝固検査**: 血液から血球成分を取り除いた血漿を検査し、血友病の診断、出血のしやすさ、血栓症の傾向や、肝機能の状態を調べる検査。

インテグレーション企業へ けて大きな一歩を踏み出しました。

及び一般管理費の増加を補い、営業利益は前期比17.8%増となりました。

配当金につきましては、上場10周年の記念増配2円を含めて16円*とし、中間期の20円と合わせ、年間で36円を予定しています。

※2005年11月18日付で実施した株式分割前の配当額に換算すると32円に相当。

中期経営計画初年度の進捗は 順調に推移

今期の業績は、過去最高を記録し、2008年3月期を最終年度とする中期経営計画は、順調に進捗しています。ここで、重点課題の取り組みについてご報告します。

まず「検体検査*事業の強化」につきましては、欧州や中国、アジア・パシフィックにおける事業展開は順調に推移しています。さらに、米国においても販売サービス体制の充実を図り、お客様からの評価が向上し、血球計数分野の市場シェアが拡大しています。この他、中国、アジア・パシフィックにおいて血液凝固*分野や生化学分野などの血球計数分野以外の事業分野が拡大しています。一方、市場環境が依然厳しい日本では、インフルエンザ迅速診断キットの販売促進や、ソリューションビジネスの推進など、事業展開の幅を広げていくことによって成長を持続しています。

「ものづくりとサプライチェーンの変革」に関しては、

研究開発体制の再編と新技術戦略の策定を実施しました。スクリーニング検査に加えて、疾患マネジメント*に基づく新しい検査技術の創出を目指し、機器・試薬*およびソフトウェアの開発技術の融合により、創造的な研究成果を生み出す環境整備を推進しています。

「ライフサイエンスの事業化」では、各種研究テーマの臨床研究・治験が着実に進捗し、欧州ではライフサイエンス事業として初の商品である乳癌リンパ節転移迅速診断システムを市場導入しました。

ヘルスケア産業の成長の機会を捉え 基本戦略に基づき事業活動を展開

当社は検体検査市場において前期比約14%の成長を遂げ、現在世界第9位に位置しています。

基本戦略の一つである「グローバルニッチNo.1」については、当社認知度が向上している米国市場において、販売活動を促進し、血球計数分野でグローバルでのシェアNo.1の獲得を目指します。また、「アジアフォーカス」については、競合他社と比較していち早く市場参入することで構築した事業基盤の優位性を活かし、品揃えを拡充することで成長を実現します。「ライフサイエンスフォーカス」では、「治療」から「予防」へ転換する医療環境の中で、新しい技術で新しい市場の創出を目指します。

当社は、事業活動を通じての豊かな健康社会の実現と、



代表取締役社長

家次 恒

いえず ひさし

【出身地】大阪 【略歴】 大学を卒業後、銀行に13年間勤務。その後、東亜医用電子株式会社（現シスメックス株式会社）に入社。1996年、代表取締役社長に就任。【趣味】 読書、ゴルフ、スポーツ観戦（熱心な阪神タイガースファン）【信条】 「意あらば通ず」

企業としての社会的責任を果たすことにより、さらなる企業価値の向上を目指します。

株主の皆様には、今後ともより一層のご支援を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

*疾患マネジメント：新しい検査を導入する事で、患者さん個々に最適な医療を提供するマネジメントシステム

*試薬：検体検査に用いられる医療用医薬品のことで、体外診断用医薬品ともいわれる。人体に直接使用されるものではなく、体外に取り出された血液や体液に使用される。

日本

医療制度改革に伴う医療の効率化に貢献するソリューションビジネスの推進

- 急速な高齢化による医療費増加の抑制を目的とした医療制度改革が進められています。医療機関では、診療報酬引き下げに対する病院経営の合理化や業務の効率化に取り組んでいます。
- 当期は、病院経営の効率化を支援する検査情報システムやISO*認証サービスを活用した総合提案型販売活動を推進しました。また、大塚製薬株式会社とのインフルエンザ迅速診断キットの販売提携や、新製品XSシリーズの発売など商品ラインアップの充実を図りました。
- 今後は、国内NO.1の販売・サービス体制を活かして、品揃えの充実を図り、ソリューションビジネスによる売上拡大を目指します。また、POC検査*市場やヘルスケア関連市場など、販売対象市場の拡大にも取り組みます。



*韓国・台湾の売上および海外関係会社向けの利益を含みます。

*ISO規格：国際標準化機構。各国で不統一な工業規格を標準化し、国際間の商業取引を円滑にするための国際規格のこと。近年、医療機関において、国際的に高いサービスの指標となるISO規格の認証取得が注目されています。

米州（北米・中南米）

中小病院市場への下方展開と検査センター市場への販売活動の強化

- 世界の検体検査市場の約40%を占める米国市場は、IHN*（統合医療ネットワーク）を中心とする病院市場と検査センター*市場に区分されます。
- 当期は、試薬の流通体制変更や物流・販売体制の充実を図り、IHNやGPO*（共同購買組織）などへの販促強化や、小規模病院・開業医市場への拡販により、血球計数装置及び試薬・サービスの売上が増加しました。
- 今後は、販売・サービス体制の充実により訪問率を向上させ、中小病院市場への下方展開と、検査センター市場に対する販促を強化し、米国での市場シェア拡大を目指します。また、市場拡大による試薬の需要増に対応するため、試薬生産工場を新設し、試薬供給体制の強化ならびに販売・サービス体制の充実を図ります。



*POC検査：診療の現場において、患者さんの側で行う臨床検査として定義され、主にクリニック・外来・ICU・手術室などで有効に機能します。Near Patient Testing, Bedside Testingなどと同意語として使用される場合もあります。

欧州

新興市場における血球計数装置の拡販と新規分野への活動強化によるシェア拡大

- 医療費抑制政策の継続によりコスト削減・効率化が求められています。一方、東欧・ロシア、アフリカなどの新興エリアにおける医療インフラ整備により医療に対する需要は増加しています。
- 当期は、先進国においては積極的な総合提案型販売活動が奏功し、血球計数装置・血液凝固測定装置・尿検査装置及び試薬の売上が順調に推移しました。また、シェアの拡大に伴う試薬の需要増に対応するため、ドイツにある試薬生産工場の拡張に着手しました。
- 今後は、先進国における医療の効率化に貢献するソリューションビジネスを推進します。また、新興エリアの東欧、ロシア、アフリカなどに向けて、血球計数装置の拡販に努めます。特に、アフリカは第2の拠点として、シスメックスサウスアフリカを設立し、販売活動を強化します。



*検査センター：検査業務を専門に実施する企業のこと。近年、通常病院内で行われている検体検査を外部の検査センターなどに委託して実施される場合があります。

中国

経済成長により、都市部における血球計数装置の高機能化が進展

- 経済成長により、農村部において政府主導の医療基盤の整備が進められています。また、都市部では医療基盤整備の段階から高度医療の提供へと医療水準が上がっています。
- 当期は、農村部における普及型血球計数装置の販売活動に加え、都市部での高機能装置への買い替えの提案活動を推進し、機器・試薬ともに順調に売上を伸ばしました。
- 今後は、生化学分野での品揃えの強化と、販売・サービス活動の充実を図り、総合サプライヤーとして事業拡大を進めていきます。



アジア・パシフィック

充実した販売サービスネットワークを活かし総合サプライヤーとしての販売活動を強化

- 新興エリアにおける政府主導の医療基盤整備が推進されています。特に、経済成長が著しいインドでは、医療環境の整備も急速に進み、今後の市場拡大が期待されています。
- 当社は、他社に先駆けて整備した販売サービスネットワークを活かし、すべての地域で血球計数装置、血液凝固測定装置及び試薬の販売が好調に推移し、売上が増加しました。
- 今後は、先進エリアにおける検査情報システムを活用したソリューションビジネスの推進を図るとともに、新興エリアにおける普及型血球計数装置の拡販を進めます。また、生化学分野や免疫分野など品揃えの拡充を図り、検体検査分野におけるアジアNo.1の総合サプライヤーを目指して事業拡大を進めていきます。



※韓国・台湾の売上および利益は除きます。

今後の事業展開

検体検査分野では、品揃えの一層の充実と販売、サービス&サポート体制の強化を図り、付加価値の高いサービスの提供を目指します。最大の市場である米国におけるシスメックスブランドの認知度向上をはじめ、各国の事情に即した的確なマーケティングと、当社の高度な技術・商品力の提案により、血球計数分野におけるグローバルNo.1を目指します。また、ライフサイエンス分野では、欧州において、「乳がんリンパ節転移迅速診断システム」を初めて市場導入し、認知活動を強化しています。このほかの研究テーマについても臨床研究・治験を推進し、早期事業化を目指します。

2007年3月期としては、連結売上高980億円、営業利益130億円、経常利益133億円を見込んでいます。

2007年3月期
連結業績予想



*IHN: 米国の総合医療事業体。複数の病院により形成され、広域の医療圏で地域住民に必要な医療の提供を目的とした組織。

*GPO: 米国の医療共同購入組織。グループを形成し、医療材料や医薬品などを共同で購買。

こんなところに シスメックス

受付から診察室
そして手術室まで



シスメックスは病院に なくてはならない存在です。

緊急
検査室

緊急検査に備えて! 手術中等に行われる緊急検査のために検査機器が準備されています。



多項目自動血球分析装置
XS-1000i



多項目自動血球計数装置
pochH-100i

中央
検査室

検査装置の国際標準!

患者さんから採血・採尿された検体が、ここでいろいろな検査装置を使って分析されます。



多項目自動血球分析装置
XE-2100



全自動血液凝固測定装置
CA-7000



全自動尿中有形成分分析装置
UF-110i



免疫凝集測定装置
PAMIA-40i



HSTトランスポーターシステム HST-N301



シスメックスは、血液や尿等を調べる「検体検査」の領域に欠くことのできない、機器や試薬、ソフトウェアなどを世界各国の医療機関に提供している総合メーカーです。私たちの製品が医療現場でどのような役割を担っているのかをご紹介します。

病室

**患者さんの負担を
少しでも軽く!**

患者さんの身体の状態をベッドサイドで測定できる検査装置もあります。



超音波膀胱画像診断装置
BVI 3000

診察室

**検査結果を少しでも
はやく!**

検査室での分析結果や、患者さんの側で検査した結果をもとに、ドクターは患者さんへの診断結果等を説明します。



インフルエンザ
迅速診断キット
ポケテム インフルエンザA/B

診療
(検査)

**受付
問診
院内システムも
トータルに
サポート!**

患者さんの状態を把握し、診断や治療法の判定に欠かせないデータを取るため、まず血液検査や尿などの検査指示が出されます。患者さんの検査結果はデータベースに一元化されます。

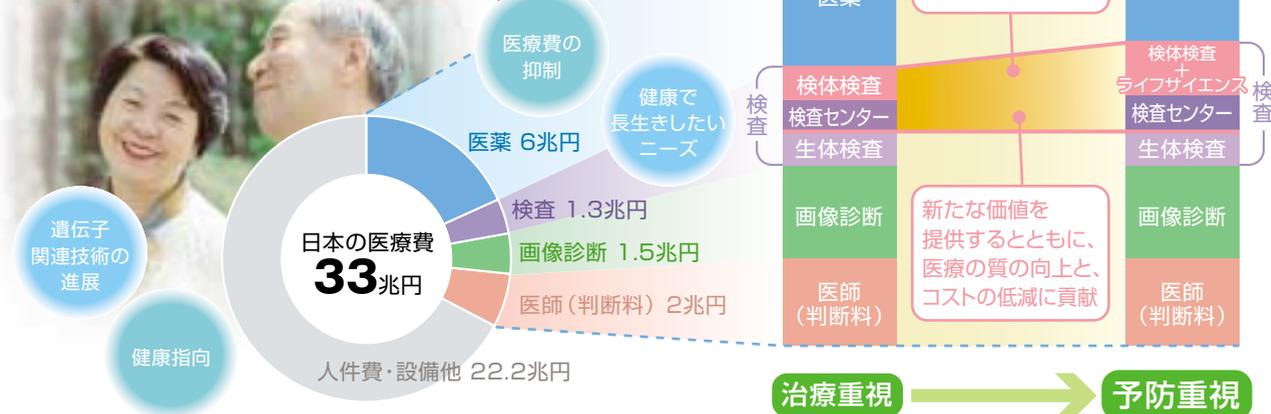


臨床検査情報システム
SIS
検査・健診情報システム
CNA-Net

疾患マネジメントのシスメックス

治療から予防へ——

シスメックスはライフサイエンス事業の確立を目指します。



高齢社会の到来と予防医療への転換

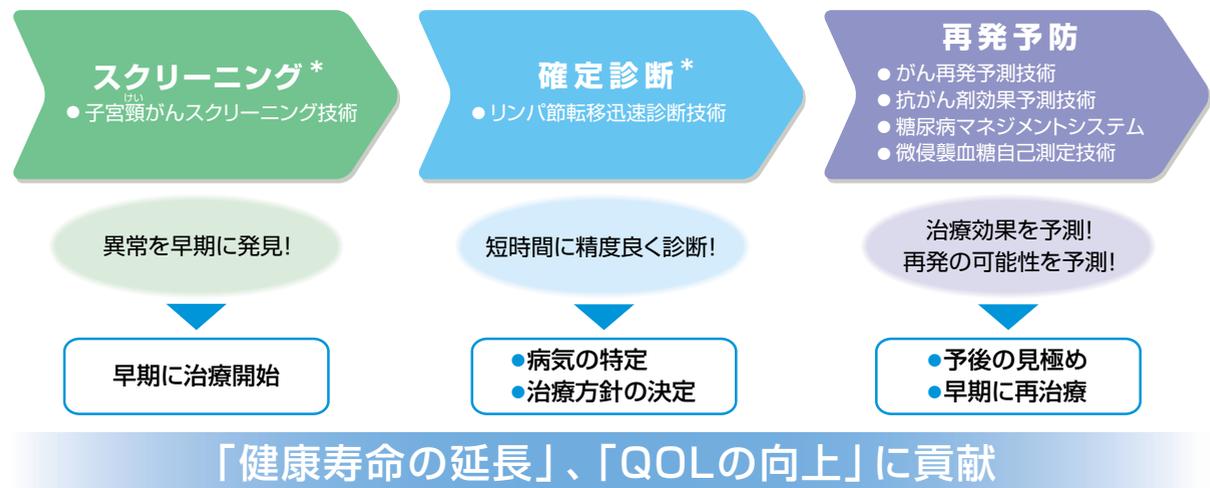
日本をはじめ高齢化の進む先進国では、健康で長く生きる、すなわち「健康寿命」をのばすための医療政策を打ち出しています。そうすることで、医療費を抑制しようとする流れにあり、世界規模で「予防医療」への転換が進んでいます。

検査(診断)の重要性

予防医療の進展とともに重視されるのが、患者さんのQOL* (Quality of Life) を高める予防医学、予後予測の実現です。そのために、検査(診断)が果たす役割はより重要になっていくと予想されています。シスメックスは、検体検査とライフサイエンスを融合することによって新しい検査技術の創出に取り組んでいます。医療の質の向上と効率化の実現に、検査を通じて貢献していきたいと考えています。

疾患マネジメントに貢献する価値の高い検査の創出

シスメックスは、ライフサイエンスの分野において、疾患マネジメントに貢献する価値の高い検査技術の創出に取り組んでいます。疾患マネジメントとは、病気の予防や再発・悪化予防のために、患者さん一人ひとりに最適な医療を提供することです。こうした新しい検査技術を通じて、シスメックスは、健康寿命の延長やQOLの向上に貢献していきます。



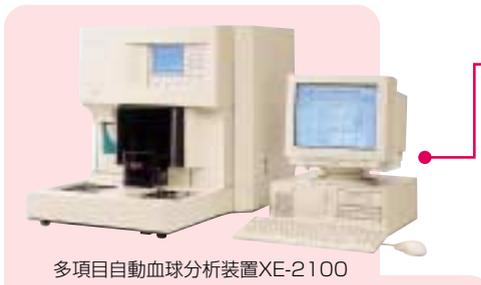
*QOL: Quality of life (クオリティ・オブ・ライフ) の略で「生活の質」という意味ですが、これは「人が人としての尊厳を保ち、よりよく生きること」を指しています。

*スクリーニング: 異常と正常にふるい分けすることです。

*確定診断: 医師が問診や臨床検査の結果から総合的に、推定された疾患の確認と、程度を判定することです。

シスメックスは、グループの持続的成長と企業価値の向上を目指して、2005年4月より3カ年にわたる中期経営計画をスタートさせました。

その進捗状況を具体的にご理解いただくために、中期経営計画で掲げた3つの重点課題に沿いながら主な取り組みをご報告いたします。



多項目自動血球分析装置XE-2100



多項目自動血球分析装置 XS-1000i

- 2005**
- 6月** ●株式会社ビー・エム・エル様より血液検査システムを受注
 - 7月** ●ツール・ド・フランスのドーピング検査で当社製品が採用
 - 8月** ●大塚製薬株式会社とインフルエンザ迅速診断キットの販売契約を締結
●バイオ・ラッド ラボラトリーズ社と米国における尿分野の販売契約を締結
 - 9月** ●英国グラスゴー保健局へ血液検査システムを導入
 - 11月** ●米国退役軍人病院ネットワークに当社製品導入が決定



インフルエンザ迅速診断キット
ボクテム インフルエンザ A / B

- 2006**
- 1月** ●米国検査サービス受託のACLラボラトリーズに当社製品導入が決定
●世界最小サイズ・微量血対応の多項目自動血球分析装置XSシリーズ発売
 - 3月** ●ロシュ・ダイアグノスティクス株式会社から、生化学分野および血液ガス分析分野のサービス業務を部分受託

検体検査事業の強化

ものづくりとサプライチェーンの変革

- 2000**
- 5月** ●欧州試薬生産工場の増強に着手
 - 8月** ●西神工場の試薬生産能力の強化に着手
●米国試薬生産工場の新設に着手
●ロシアに駐在員事務所を開設
●シスメックスポーランド設立
 - 12月** ●会社分割による診断薬生産部門の分社化を発表
●新たな検査技術の創出に向け、研究開発拠点に隣接する不動産取得



米国試薬生産工場完成予想図



イメージ図

2010

新しい事業の創出

ライフサイエンスの事業化

- 2005 4月 ●米国がん学会にて抗がん剤の効果診断法を発表
- 2006 4月 ●乳がんリンパ節転移迅速診断システムを欧州で市場導入開始



遺伝子増幅検出装置 RD-100i

達成目標 (2008年3月期)

連結売上高 1,100億円
 連結経常利益 160億円
 連結経常利益率 14.5%
 ROE 13.0%

2007

その他

- 2005 4月 ●神戸市立王子動物園のパンダを支援
- 5月 ●シスメックスグループ中期経営計画を発表
●震災復興10年「Tシャツプロジェクト」に参加
- 9月 ●ピンクリボン運動をサポート
- 12月 ●シスメックス女子陸上競技部を設立
●阪神・淡路大震災復興10周年記念事業「はつらつフェスタ2005」に出展
- 2006 3月 ●イオン株式会社様新店舗に、当社セルフメディケーション支援システムを納入



シスメックス女子陸上競技部創設発表記者会見



セルフメディケーション支援システム

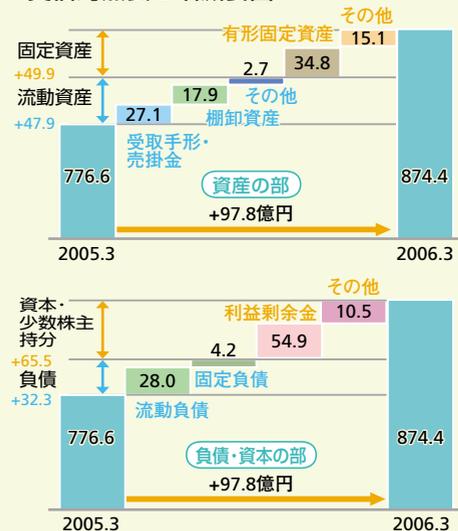


はつらつフェスタの当社ブース



●貸借対照表の増減要因

(単位:億円)



●総資産

前期末に比べ、97億86百万円増の874億46百万円となりました。主な要因は販売活動が好調に推移し売上高が増加したことに伴い、受取手形・売掛金や棚卸資産が増えたことなどによるものです。また研究開発拠点の拡充に向けた設備投資による有形固定資産も増えております。

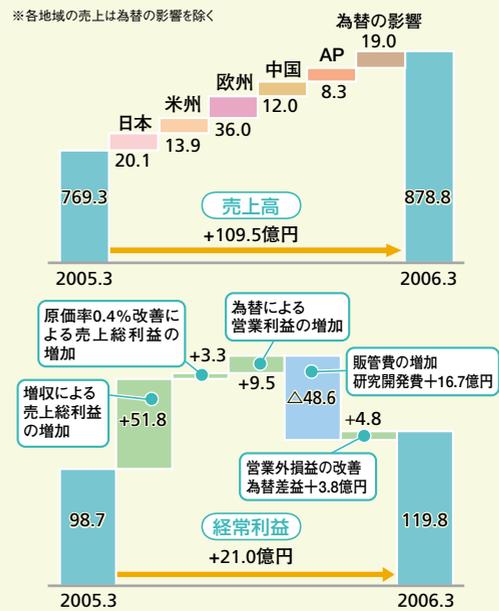
●負債・資本

負債は、前期末に比べ32億31百万円増の239億39百万円、一方株主資本は利益剰余金が増え、前期比64億97百万円増の626億46百万円となりました。

●売上高・経常利益の増減要因

(単位:億円)

※各地域の売上は為替の影響を除く



●売上高

前期に比べ、109億53百万円増(前期比14.2%増)の878億87百万円となりました。欧州をはじめ、各地域の業績が順調に推移し、海外売上高は、524億69百万円(前期比20.5%増)となり、構成比は59.7%(前期は56.6%)となりました。

●経常利益

前期に比べ、21億9百万円増(前期比21.4%増)の119億81百万円となりました。増収による売上総利益の増加が最も大きく、研究開発費16億75百万円を含む販売費及び一般管理費の増加を吸収しました。

貸借対照表

(単位:百万円)

	当 期 2006年3月31日現在	前 期 2005年3月31日現在	前年同期 増減額
流動資産	54,851	50,060	
固定資産	32,594	27,599	
●資産合計	87,446	77,660	9,786
流動負債	20,967	18,161	
固定負債	2,971	2,546	
●負債合計	23,939	20,708	3,231
少数株主持分	860	802	58
資本金	7,954	7,954	
資本剰余金	11,184	11,182	
利益剰余金	41,550	36,050	
その他有価証券評価差額金	1,234	656	
為替換算調整勘定	872	423	
自己株式	△150	△118	
●資本合計	62,646	56,149	6,497
負債・少数株主持分・資本合計	87,446	77,660	9,786

損益計算書

(単位:百万円)

	当 期 2005年4月 1日から 2006年3月31日まで	前 期 2004年4月 1日から 2005年3月31日まで	前年同期 増減率 (%)
●売上高	87,887	76,934	14.2
売上原価	36,739	32,803	
売上総利益	51,148	44,130	
販売費及び一般管理費	40,425	35,027	
営業利益	10,723	9,103	17.8
営業外収益	1,558	1,218	
営業外費用	300	450	
●経常利益	11,981	9,871	21.4
特別利益	59	19	
特別損失	138	652	
税金等調整前当期純利益	11,902	9,237	28.9
法人税・住民税及び事業税	5,010	3,614	
法人税等調整額	△561	△108	
少数株主利益	31	0	
当期純利益	7,422	5,731	29.5

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当 期 2005年4月 1日から 2006年3月31日まで	前 期 2004年4月 1日から 2005年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,275	6,691
投資活動によるキャッシュ・フロー	△7,858	△5,630
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,190	△4,376
現金及び現金同等物に係る換算差額	275	55
現金及び現金同等物の増減額	△498	△3,260
現金及び現金同等物の期首残高	10,457	13,718
連結子会社の決算期変更に伴う 現金及び現金同等物の減少高	△542	—
現金及び現金同等物の期末残高	9,416	10,457

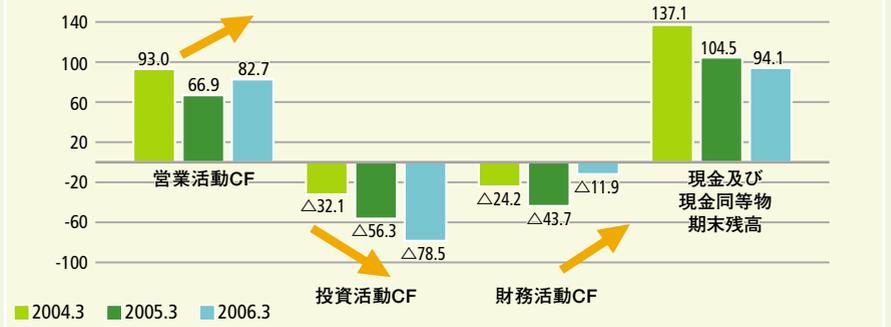
剰余金計算書

(単位:百万円)

	当 期 2005年4月 1日から 2006年3月31日まで		前 期 2004年4月 1日から 2005年3月31日まで	
資本剰余金期首残高		11,182		11,170
資本剰余金増加高				
株式発行による組入額	—		11	
自己株式処分差益	2	2	0	11
資本剰余金期末残高		11,184		11,182
利益剰余金期首残高		36,050		31,243
利益剰余金増加高				
当期純利益	7,422	7,422	5,731	5,731
利益剰余金減少高				
配当金	1,123		823	
役員賞与	111		100	
(うち監査役賞与)	(15)		(14)	
連結子会社の決算期変更に伴う減少高	687	1,923	—	924
利益剰余金期末残高		41,550		36,050

●キャッシュフローの推移

(単位:億円)



●営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、得られた資金は、82億75百万円(前期比15億83百万円増)となりました。これは、税金等調整前当期純利益は119億2百万円と大幅に増加しましたが、売上債権の増加が23億83百万円、仕入債務の減少が7億53百万円となったことが主な要因です。

●投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果、使用した資金は、78億58百万円(前期比22億28百万円増)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出は57億95百万円と大幅に増加した一方、投資不動産の取得による支出が58百万円と減少したことが主な要因です。

●財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果、使用した資金は、11億90百万円(前期比31億86百万円減)となりました。これは短期借入金の純減額が39百万円、長期借入金の返済による支出が19百万円と減少したことが主な要因です。

●現金及び現金同等物期末残高

現金及び現金同等物の期末残高は94億16百万円となり、前期末より10億41百万円減少しましたが、成長企業として事業活動で創出したキャッシュをさらなる成長に向けた投資へ循環させていることを表しています。

貸借対照表

(単位:百万円)

	当 期 2006年3月31日現在	前 期 2005年3月31日現在	前年同期 増減額
流動資産	40,329	38,938	
固定資産	40,109	34,771	
資産合計	80,438	73,709	6,729
流動負債	17,377	15,370	
固定負債	1,352	1,556	
負債合計	18,730	16,927	1,803
資本金	7,954	7,954	
資本剰余金	12,115	12,113	
利益剰余金	40,690	36,214	
その他有価証券評価差額金	1,098	617	
自己株式	△150	△118	
資本合計	61,708	56,782	4,926
負債及び資本合計	80,438	73,709	6,729

損益計算書

(単位:百万円)

	当 期 2005年4月 1日から 2006年3月31日まで	前 期 2004年4月 1日から 2005年3月31日まで	前年同期 増減率 (%)
売上高	57,768	51,845	11.4
売上原価	26,081	23,787	
売上総利益	31,687	28,057	
販売費及び一般管理費	26,006	23,696	
営業利益	5,681	4,360	30.3
営業外収益	3,543	2,760	
営業外費用	305	397	
経常利益	8,918	6,723	32.6
特別利益	5	4	
特別損失	339	410	
税引前当期純利益	8,584	6,317	35.9
法人税・住民税及び事業税	3,165	2,161	
法人税等調整額	△511	△149	
当期純利益	5,931	4,305	37.8
前期繰越利益	1,586	1,378	15.1
中間配当額	499	374	
抱き合わせ株式消却損	△234	—	
当期末処分利益	6,785	5,309	27.8

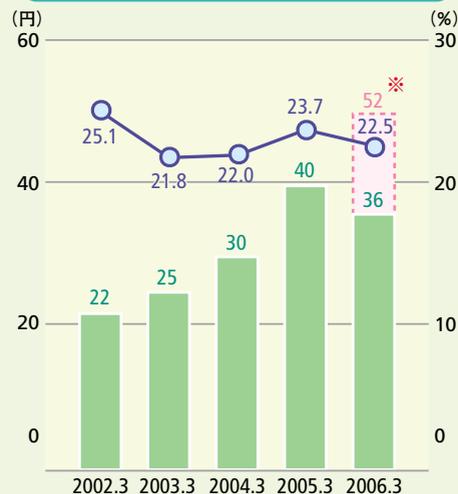
利益処分

(単位:百万円)

	当 期 2006年6月23日 株主総会決議	前 期 2005年6月24日 株主総会決議
当期末処分利益	6,785	5,309
利益処分額	4,953	3,722
配当金	798	624
	1株につき 普通配当14円 上場10周年記念配当 2円 ※	1株につき 普通配当25円
役員賞与金	154	98
(うち監査役賞与金)	(—)	(11)
別途積立金	4,000	3,000
次期繰越利益	1,831	1,586

(注) 1.記載金額は百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。
2.当期は1株につき20円の間配当を実施いたしました。

配当性向/1株当たり配当金



※2005年11月18日付で、普通株式1株につき、2株の割合で株式分割を実施しました。
(ご参考) 52円は、分割前ベースに換算した配当額です。

配当政策

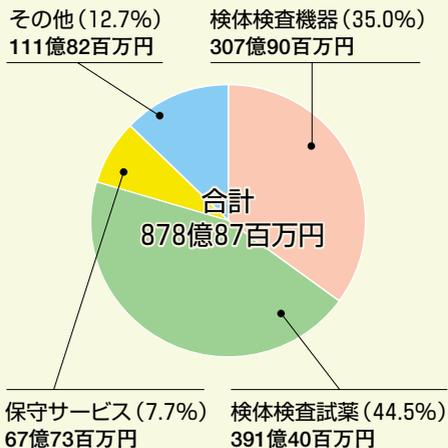
【基本方針】

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の最重要政策の一つとして位置付けており、継続的な配当に留意するとともに、業績に裏付けられた成果の配分を行うことを基本方針としています。

■事業別売上高(連結)



■品目別売上高(連結)



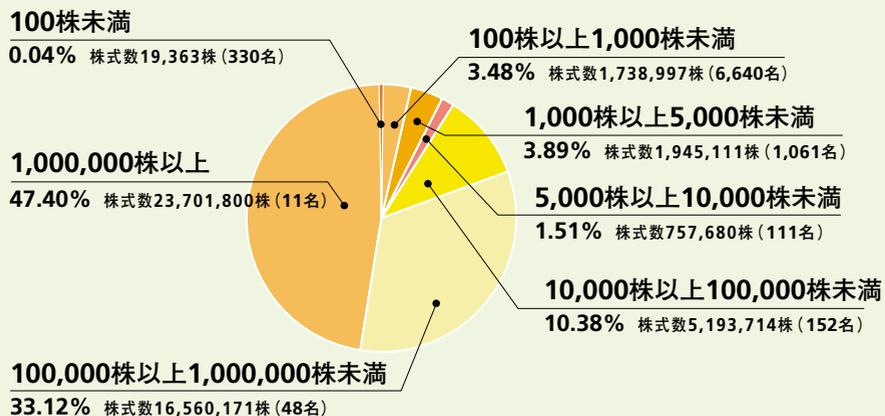
<h3>検体検査</h3> <p>■システム</p>  <p>HSTトランスポートシステム HSTシリーズ</p>  <p>HSTトランスポートシステム XE-Alpha N</p>		
<p>■血液検査</p>  <p>多項目自動血球分析装置 XE-2100</p>  <p>多項目自動血球分析装置 XT-2000i</p>  <p>多項目自動血球分析装置 XS-1000i</p>		
<p>■血液凝固検査</p>  <p>全自動血液凝固測定装置 CA-7000</p>  <p>全自動血液凝固測定装置 CA-500</p>	<p>■免疫血清検査</p>  <p>免疫凝集測定装置 PAMIA-40i</p>	<p>■尿検査・便検査</p>  <p>全自動尿中有形成成分分析装置 UF-110i</p>  <p>便潜血用全自動分析装置 Hemo-LIAS200</p>
<h3>IT</h3> <p>■検査情報システム</p>  <p>臨床検査情報システム SIS</p>  <p>血液細胞画像ファイリングシステム LAFIA</p>		<h3>POC検査</h3>  <p>多項目自動血球計数装置 poCH-100i</p>  <p>自動血液凝固測定装置 CA-50</p>
<h3>新規事業</h3> <p>■産業用粒子計測</p>  <p>フロー式粒子像分析装置 FPIA-3000</p>  <p>シースフロー電気抵抗式粒度分布測定装置 SD-2000</p>	<p>■ヘルスケア</p>  <p>末梢血管モニタリング装置 ASTRIM SU</p>	
		<h3>検体検査試薬</h3>  <p>インフルエンザ迅速診断キット ポクテム インフルエンザ A / B</p> 

●株式の状況

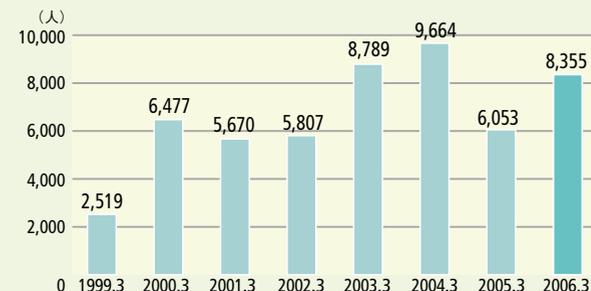
■ **会社の発行可能株式総数** **149,672,000株**[※]
 ※2005年11月18日付をもって、会社の発行可能株式総数を74,836,000株増加して149,672,000株としました。

■ **発行済株式総数** **50,005,596株**[※]
 ※2005年11月18日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しました。

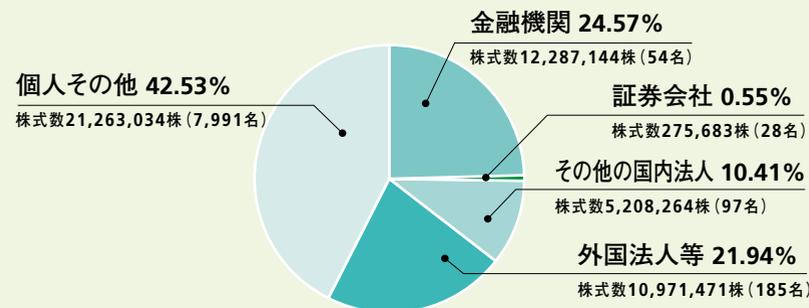
■所有数別分布状況



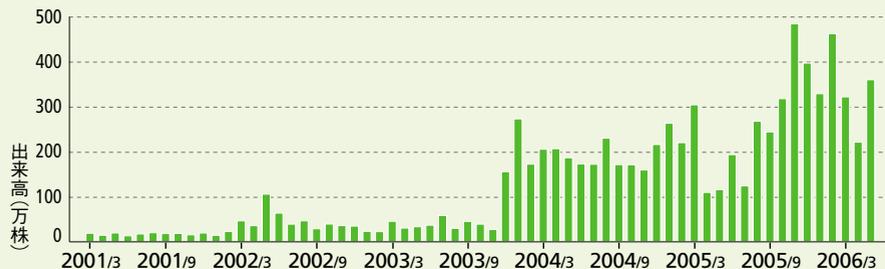
■株主数の推移



■所有者別分布状況



■株価・出来高の推移 (2006年5月31日現在)



※2005年11月18日付で、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施しました。



● 会社概要

■ 商 号	シスメックス株式会社 SYSMEX CORPORATION (1998年10月1日東亜医用電子株式会社から商号変更)
■ 設立年月日	1968年2月20日
■ 資 本 金	79億5,459万円
■ 格 付 け	A (R&I:格付投資情報センター)
■ 従 業 員 数	1,228名 <small>※左記の従業員数には関係会社への出向者138名および嘱託、パートタイマー288名は含んでおりません。(2006年3月31日現在)</small>
■ 主な事業の内容	臨床検査機器、検査用試薬、粒子分析機器ならびに 関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入
■ 主な事業所	
本 社	〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号 TEL.078-265-0500(代) FAX.078-265-0524
	ソリューションセンター テクノセンター 研究開発センター
	加古川工場 小野工場* 西神工場* <small>*シスメックス国際試薬株式会社</small>
	仙台支店 北関東支店 東京支店 名古屋支店
	大阪支店 広島支店 福岡支店
	営業所 札幌、盛岡、長野、新潟、千葉、横浜、静岡、金沢、京都、神戸、 高松、岡山、鹿児島

■ 主な関係会社

シスメックス国際試薬株式会社	SYSMEX BELGIUM IT SLOVAKIA,S.R.O.(スロバキア)
シスメックスメディカ株式会社	SYSMEX POLSKA S.P.Z.O.O.(ポーランド)
トーアメディカル株式会社	SYSMEX SOUTH AFRICA (PTY) LTD.(南アフリカ共和国)
シスメックス物流株式会社	済南希森美康医用電子有限公司(中国)
シスメックスRA株式会社	希森美康香港有限公司(中国)
株式会社シーエヌエー	希森美康医用電子(上海)有限公司(中国)
SYSMEX AMERICA,INC.(アメリカ)	希森美康電脳技術(上海)有限公司(中国)
SYSMEX REAGENTS AMERICA,INC.(アメリカ)	希森美康生物科技(無錫)有限公司(中国)
SYSMEX DO BRASIL INDUSTRIA E COMERCIO LTDA. (ブラジル)	SYSMEX ASIA PACIFIC PTE LTD.(シンガポール)
SYSMEX EUROPE GMBH(ドイツ)	SYSMEX (MALAYSIA) SDN BHD(マレーシア)
SYSMEX DEUTSCHLAND GMBH(ドイツ)	SYSMEX TRANSASIA BIO-MEDICALS PRIVATE LTD (インド)
WELLTEC GMBH(ドイツ)	SYSMEX (THAILAND) CO.,LTD.(タイ)
SYSMEX UK LIMITED(イギリス)	MED-ONE CO.,LTD.(タイ)
SYSMEX LOGISTICS UK LTD.(イギリス)	SYSMEX SAN TUNG CO.,LTD.(台湾)
SYSMEX BELGIUM S.A.(ベルギー)	SYSMEX NEW ZEALAND LIMITED(ニュージーランド)
SYSMEX FRANCE S.A.S.(フランス)	PT. SYSMEX INDONESIA(インドネシア)

● 株式メモ

■ 事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
■ 定時株主総会	6月
■ 基準日	
定時株主総会	3月31日
期末配当金	3月31日
中間配当金	9月30日
	その他必要がある場合は、あらかじめ公告して設定します。
■ 公告掲載新聞	日本経済新聞
■ 上場証券取引所	東京証券取引所市場第1部 大阪証券取引所市場第1部
■ 証券コード	6869
■ 単元株式数	100株
■ 株式事務	
株主名簿管理人	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先・ 電話照会先)	〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-707-696(フリーダイヤル)
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店

- お知らせ**
- 住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式の買取・買増請求に必要な各用紙、および株式の相続手続依頼書のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル **0120-86-4490**で24時間承っておりますので、ご利用ください。
 - 配当金を郵便貯金口座または銀行口座へお振込みすることができますので、株主名簿管理人に指定書用紙をご請求ください。
 - 単元未満株式の買増制度を導入いたしておりますので、詳しくは株主名簿管理人にお問い合わせください。

● 役員のご紹介

代表取締役社長	家次 恒	取締役 執行役員	山本 博
取締役 専務執行役員	雪本 賢一	取締役 執行役員	中島 幸男
取締役 常務執行役員	和歌 光雄	取締役 執行役員	田村 幸嗣
取締役 常務執行役員	岩崎 為雄	常勤 監査役	明田 光弘
取締役 執行役員	中谷 正	常勤 監査役	岩田 豊太郎
取締役 執行役員	林 正好	監査役	石田 義暁
取締役 執行役員	大東 重則	監査役	藤岡 弘

※データは全て2006年6月23日現在のものです。

* IR・広報室からのお知らせ *

投資家様向けWebサイトをリニューアル

このたび、当社ホームページの『株主・投資家の皆様へ』コーナーをリニューアルし、株主・投資家の皆様にとってよりわかりやすく、さらに充実したIRサイトが誕生しました。また、当社IRサイトがIR支援会社の主催する「インターネットIRサイト優秀企業」に選ばれました。



『個人投資家の皆様へ』ページを新設

2006年度上半期の事業報告トピックスをアニメーション形式でご覧いただける「Sysmex Now」などの映像コンテンツに加え、会社概要をご理解いただくための入門ガイド「シスメックスがよくわかるカルテ」、「5分でわかるシスメックスの技術」等、当社の企業情報をわかりやすくご提供するために、アニメーションや映像を駆使したコンテンツなど、インターネットならではの情報を掲載しています。



▲Sysmex Now



▲シスメックスがよくわかるカルテ



▲5分でわかるシスメックスの技術

「メール配信サービス」をスタート

パソコンから当社ホームページにアクセスしていただき、株主・投資家の皆様のページからご登録いただくと、当社の最新トピックスやホームページの更新情報などを電子メールにてお知らせします（ご登録・購読無料）。この機会にぜひご登録ください！

その他、投資家様向けWebサイトでは、以下のようなIR関連情報を公開しています。

ご登録はこちらへ

URL=www.sysmex.co.jp/ir/index.html

- トップメッセージ ●経営方針 ●財務・業績情報
- 株式・債券情報 ●個人投資家の皆様へ
- 会社案内 ●IRカレンダー ●アナリスト一覧

2006年3月期決算説明会の模様を当社ホームページにて、動画でご覧いただけます。

決算資料などをWebサイトからダウンロードできます。



当営業のご報告書のリニューアルのお知らせと株主様アンケートご協力のお願い



タイトルを「Be Fine!」に改め、サイズ・デザインも一新したシスメックスの新しい営業のご報告書はいかがでしたでしょうか？ シスメックスは神戸に本拠地を置いているため、今回の表紙は、神戸の美しい街並みをモチーフに描きました。

また、前回の株主様アンケートでいただきましたご意見を参考に、以下の点に配慮いたしました。

- 本文の文字サイズを大きくし、より読みやすく
- 財務諸表の概要ページにグラフとポイントメモを入れ、より分かりやすく

さらに充実した誌面づくりと、株主の皆様とのより深いコミュニケーションを図っていくために、今回も株主の皆様にご協力をお願いいたします。誠にお手数とは存じますが、**同封のアンケートはがきにご記入の上、ご返送ください**。お寄せいただいた貴重なご意見を、今後のIR活動に反映させ、企業価値の向上に努めてまいります。ご協力の程、よろしくごお願い申し上げます。